

プロジェクト名	教員養成カリキュラムにおける色材を用いた絵画指導教材の開発		
プロジェクト期間	平成 23 年度		
申請代表者 (所属講座等)	加藤隆之 (美術教育講座)	共同研究者 (所属講座等)	
取組方法および 取組実績の概要	<p>本研究は、教員養成カリキュラムにおいて絵画の基礎的な指導のなかに専門的な絵画組成と描画材料の学習を取り入れ、素材の理解を通じた絵画の授業をおこなうための、視覚的資料教材の製作を目的としている。</p> <p>研究の方法として、視覚的資料となる絵具やその原材料など色材に関わる実物の素材収集と、素材の展示や持ち運びが可能となる展示ボックスの製作をおこなった。</p> <p>本研究をおこなうにあたって基本資料としたのが、目黒区美術館が教育普及活動のために作成している「引き出し博物館」と名付けられた教材である。目黒区美術館にてこの「引き出し博物館」を取材して教材としての形状や保存方法などを確認した上で、これを用いた教育活動について内容と利用方法の検証をおこなった。そして本プロジェクトでの教員養成カリキュラムにおける使用を見越して、「引き出し美術館」からの改善点や展示方法について、教材として必要となる使用形態の考察をおこなった。その結果、授業において必要なときには素材を取り出して使用できるような取り出し可能な形態として、素材の使用を通じた体験が可能となる体感型の展示ボックスを製作するにいたった。</p>		
研究成果の概要	<p>収集した素材は、油彩画に関連する描画材料の顔料、油絵具、画溶液、樹脂、そして描画道具の筆である。特に、顔料と油絵具といった色材に関してはできるだけ多くの種類を集めている。顔料は 65 色、絵具は単一メーカーで 146 色、複数メーカーを合わせると総数は 189 色となる。並行して収集した絵具を使用した色見本も作成した。今回は色材を用いた教材と感性の育成とを関連させるねらいを持って色材の収集に力を注いだ。本研究で制作する視覚的資料教材は、本物の色を感じることでできる資料として学生への感性教育に直結した教材として使用できる。今後は、大学の絵画の授業へこの教材を生かすことで、これまでの描画表現における専門的な能力の習得に加えて、描画材料の知識を身につけ素材と表現との関係性まで理解できる授業が可能となり、従来の作品制作を中心とした教員養成カリキュラムから発展させた授業として指導内容を充実させることができる。</p> <p>さらに学部授業への使用に加えて、大学院でのより専門的な絵画組成の授業への使用といった、基礎から高い専門性までを補完する教材として使用可能となる。</p>		

外部資金獲得申請及び研究成果の公表方法について

外部資金獲得 申請（予定）	科学研究費補助金	研究成果の 公表方法（予定）	大学教育美術学会発表
------------------	----------	-------------------	------------